参考様式B4（自己評価等関係）

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 2 月 20 日　　事業所名　空（スカイ）

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8			まずは利用定員がオーバーしないようにしっかり把握したうえで、環境整備に配慮
	2	職員の配置数は適切である	8			感染症などでお休みされる場合は、出勤日でない職員に交渉して配置基準を満たすようにしている。そのために職員を余分に雇用している。
	3	事業所の設備等は、子ども達が動きやすく活動しやすいように整っているか	8			新しく療育内容が増えてくることを想定しながら利用者様の特性に合わせて活動しやすいスペースや内容を常に考慮している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8			PDCAサイクルに関しては研修会時に項目を上げて取り組んいるが、最近はDCD（不器用さを器用さに）も取り入れ、それぞれ目標をもって進めている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			保護者様の目線も大切し、評価表のみならず保護者様と話し合いの時間を設けることで事業所側の思いも合わせて業務の遂行に努力している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8			ホームページを見直し更新していくことで、保護者様や一般の方への興味に繋げご意見もお聞きできる機会を作っている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8			職員間の研修や講師を招いての研修会をしっかり確保し資質向上はもちろん、自分から課題を提案し職員間で話し合っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8			必須内容であり、より深いアセスメントを実施することで、個々の計画をしっかり立てることができる。日々振り返りの中にも導入している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8			現在も活用中
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8			職員が個々に思案と対策をもって話し合い、取り組みやすい計画の立案に取り組んでいる。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8			利用者様の成長につれて特性の変化に気づきをもち、そのつど検討しているが、ここでもアセスメントツールを活用している
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8			休日は開所していないが、長期休暇での課題は、会議等で計画を立てて継続的に行えるような支援も多く取り入れる工夫をしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	8			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8			出勤後に必須内容
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8			職員の心身等の健康状態を考慮して、翌日出勤してから打ち合わせと振り返りを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8			必須
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8			必須
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	8			基本はガイドラインの内容であり、事業所の特性と利用者様の特性に合わせて支援計画を立てて支援している。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8			実行している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8			特に学校と保護者様からの利用予定表の下校時間の相違で送迎にトラブルが発生することがあるので、疑問に思った時は、保護者や学校に確認をとって利用者様に不安を与えないように注意をしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	3		まず保護者様から詳しくお聞きし、保護者様よりドクターに直接聞いてほしいと言われたらお聞きするようにしている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	3		必須
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	3		必要な内容のみ情報提供をしている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2			真剣に取り組むことで、専門機関との連携が不可欠になってきている。多くの情報や助言をいただき、実行に移している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		8		
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	3	5		児童管更新時に勉強し、必要に応じて参加をしたいと思っている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8			連絡ノートにおいてもお知らせは必須である。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	4	4		必要な場合は相談支援さんまたは、市の専門機関に相談をしている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	3		必須
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	4		時間を取ってかならず対応しできる支援は行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		8		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8			必須
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	3		活動、行事を行う場合は、利用者全員に配布でお知らせしたり、「スカイだより」を月１回のペースで利用者様の様子を各家庭に配信している。
	35	個人情報に十分注意している	8			必須
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			全員何らかの障害を持っているので、必須内容である。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		8		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している。また新たに「子どもの安全・安心対策」「送迎車車両の改修」を追加	8			保護者様には、契約時にしっかり説明をしているし、事業内でも徹底している。特に送迎後の車中の確認を怠らないように、マニュアル追加（幼児の置き去り事件後）や、最近では、三列シートにおける確認ブザーを設置し「子どもの安心・安全対策支援・送迎用車両の改修」の説明をし、非常事態にならないように肝に銘じて実行するように協力要請をしいる。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8			必須
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8			事業所内で職員間で2か月に1回は実行しているが、その上年1回から2回外部から講師を招き研修会を開催し必ず質疑応答を入れている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8			契約時には保護者様に説明をし納得や了解を得ているし計画書にも記載はしてあるが「やむを得ない場合」の時の判断は難しいと少数の職員から相談を受けることもあるので、対応策として（虐待と間違われないような）ロールプレイ等をしたり、迷ったときには理事長に指導を仰ぐことを徹底している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8			アレルギーのあるお子さんについては、保護者様がドクターから指示を受けられたことを、事業所につたえていただき、しっかり対応をしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8			以前から実行していて、どのような些細なことでも、詳細に記載し、回覧にて周知は続けている。その後課題として会議等で検討をしている。